

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890700036
法人名	NPO法人 アクティブボランティアセンター阿蔵の森
事業所名	グループホーム阿蔵の森
所在地	大洲市阿蔵甲1961番地4
自己評価作成日	平成23年 11月 30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年12月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・山のふもとにあり、立地環境が良く季節感を感じて日光浴・散歩に適している。</li> <li>・個々にあわせてゆったりと安心した生活ができるよう努めている。</li> </ul>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所では、「利用者への言葉のかけ方や言葉遣いが馴れ合いになっていたり、気がつかない間に言葉の拘束を行っているのではないか」ということに気付かれ、現在、改善に取り組んでおられる。まず、職員全員にアンケートを取って「言ってはいけない言葉」を書き出してもらった。「どこ行くの。座って」「ちょっと待って」等、職員から出された例に沿って、「どうしてそのような言葉が出てしまうのか」「どうすればいいのか」ということを、利用者の目線に立って考え、話し合われた。又、「利用者一人ひとりを尊重した声かけができてきているか」ということを、一週間ごとに、職員間で振り返り確認し合うよう仕組みを作られた。管理者は、利用者への言葉かけや対応については、さらなるケアの質向上に向けて、課題として挙げておられ、今後も継続的に取り組んでいきたいと考えておられた。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム阿蔵の森

(ユニット名) A

記入者(管理者)

氏名 岡山 節子

評価完了日 平成23年 11月 30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「あたたかい手」「明るい笑顔」「やすらぎの空間」という理念の基に、グループホーム全体で月に一回ミーティングを行っている。 (外部評価) 理念は、玄関の扉を開けると見える場所に、額に入れて掲示されている。管理者は、理念に沿って「あたたかい介護がしたい」と考えておられ、「利用者が希望を言え、職員がその希望を叶えられるように支援する」ことを目指し、取り組みをすすめておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 小学校の運動会、地区の盆踊り、保育園児が来所していただいたりと、参加・見学を行っている。 (外部評価) 地域にある小学校は、毎年、運動会に招待してくれたり、又、児童が育てたもち米を持って来てくれている。事業所では、2月10日の創立記念日に、ついたお餅をお礼にお渡ししたり、ご近所のお宅にも配っておられる。保育園児は、散歩の途中に時々立ち寄ってくれる。事業所の向かいにある集会所で、毎月、地区のサロンを行っておられ、誘ってくださるが、現在、参加するまでに至っていないようだ。管理者は今後、参加できるよう取り組みたいと考えておられた。又、小学校のもち米の田植えや稲刈りにも、来年は見学に出かけることを計画されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を活用して、公民館、小学校、他グループホームからのイベント等のお誘いを受けたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>2ヶ月に1度行っている。</p>	<p>地域の方達は、日頃から事業所にことをよく気にかけてくださっており、又、事業所の行事時には、ご家族も多数参加してくださっている。地域とのネットワークを活かして会議への参加を働きかけたり、行事の機会を活かして会議を開催されてはどうだろうか。運営推進会議は、事業所のサービスを良くするための取り組みでもあり、いろいろな方の意見や要望等を聞けるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。又、会議の内容等を公開し、事業所の取り組みを多くの方に知ってもらえるよう、取り組んでいかれてほしい。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>今年度の会議より、会議には地域の小学校の校長にも参加していただいている。利用者や公民館長や交流のある他事業所の職員の方も参加してくださっている。ご家族は、1名の方に参加をお願いされている。会議では、管理者が、利用者の状況や行事の報告を行っておられる。他事業所の職員より、「昼食時に音楽をかけてゆったりと食べていただいているかどうか」と提案をいただいた。小学校の運動会の駐車場の確保が難しいことを伝えると、公民館長が駐車場の確保に協力をしてくださった。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>定期的に連絡会・勉強会が開かれる。市町村と連携を取り質の向上に努めている。</p>	<p>市の担当者が、運営推進会議に参加していただき、介護保険について等、参加者からの質問に答えてくださっている。介護相談員の訪問は、毎月あり、利用者とお話し等してくださっている。管理者は、今後、介護相談員が気付いたことや意見をお聞きしたいと考えておられた。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>市の担当者が、運営推進会議に参加していただき、介護保険について等、参加者からの質問に答えてくださっている。介護相談員の訪問は、毎月あり、利用者とお話し等してくださっている。管理者は、今後、介護相談員が気付いたことや意見をお聞きしたいと考えておられた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>無断外泊される入居者に対して家族へ説明、理解して頂くようにしている。</p>	<p>日中、玄関は施錠されていない。利用者が外に出ようとする時には、職員が付き添い散歩できるよう支援されている。事業所団体が主催する南予地区の研修会で、身体拘束について勉強した際には、ミーティング時には、研修時の資料を用いて他職員に報告された。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>日中、玄関は施錠されていない。利用者が外に出ようとする時には、職員が付き添い散歩できるよう支援されている。事業所団体が主催する南予地区の研修会で、身体拘束について勉強した際には、ミーティング時には、研修時の資料を用いて他職員に報告された。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  市の職員に相談にのってもらっている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  制度に関する勉強会は出来ていないと思う。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  十分に説明して納得された上で捺印、サインして貰っている	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  出来ている。面会時に声かけを行い、利用者様の近況報告をし、ご家族とのコミュニケーションを図るよう努めている。  (外部評価) 事業所主催の敬老会は、ご家族にも参加いただけるよう案内されており、日曜日に併設デイサービスのフロアで開催し、今年は、半数ほどのご家族が参加して下さった。利用者はご家族は、職員の出し物やボランティアの方の踊りを楽しまれた。その後、今年初めて、ユニットごとに分かれて、「食事をしながら家族が交流する場」を作られた。そうめん流しを行なった際、竹の切り出しやセッティングを手伝って下さったご家族もいる。	ご家族が知りたい情報を定期的に報告するような取り組みも期待される。ご家族は、利用者とともに支えるケアのパートナーでもあり、運営推進会議への参加を働きかけたり、事業所の取り組みに参加いただくような機会を工夫して、より具体的な意見や要望を引き出せるよう、取り組んでいかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			定期的にミーティングの機会を設けている。	
			(外部評価)	
			職員は、事業所団体が主催する研修会に順番に参加され、受講した職員がミーティング時に報告されている。毎月のミーティングは、職員から意見等が出されることはあまりないようで、管理者は、職員にもっと発言をしてもらいたいと思っておられる。	利用者の暮らしを支える現場職員の提案やアイデアをサービスに反映していけるような仕組み作りが期待される。職員は、日中の過ごし方や畑の活用等、いろいろなアイデアを持っておられるようだ。又、運営推進会議に職員も参加できるよう取り組まれ、会議メンバーと意見交換できるような機会を作ってはどうか。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			現在は個々の評価は行ってないが、今後各自での面接等を行い、給与水準に反映していく。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修を受ける機会も確保できており、レポート提出により他職員も共に学びの場を作ることができている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			定期的にミーティング実施。他施設への見学等行っている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			出来ている。ゆっくりとコミュニケーションをとれる時間を作り、ご本人の不安を取り除き安心して生活して頂けるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面会に来られた時に話を聞いたりしている。あまり面会に来られない家族には意見書を書いて郵送している。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>事前にアセスメント等を行い、把握して、本人・家族等に合ったサービスを提供するよう心がけている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>若い頃の話や体験談などを聞いたり、いろいろな事を教えていただいている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族の希望に沿うように対応している。また、自宅にいる時のような環境づくりに努めている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居者が家族に連絡して欲しいと訴えがあれば連絡している。会いたいと訴えがあれば面会に来ていただいている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>行きつけの美容室にご家族と出かける利用者がいる。入居当初は、知り合いの方がよく会いに来てくださっていたようだ。</p>	<p>さらに、利用者の生活歴や大切なこと等の情報収集に努められ、社会性や馴染みの関係を続けていけるような支援をすすめていかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者一人ひとりの性格を把握しいろいろな手伝いを協力してもらっている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 医療機関、家族と情報提供や話し合いが出来る様に連携をとっている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 自分の意思表示が出来る方には実現できることは実施し、出来ない方には家族からの情報や日頃の言動で把握するよう努めている。	
			(外部評価) 日々の会話の中で聞き取ったことは、経過記録に記入するよう努めておられる。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握できるような情報収集に取り組んでいかれてほしい。又、利用者個々の生活歴や嗜好、習慣等、アセスメントにも取り組み、利用者が意思表示が難しくなったような場合にも、これまで蓄積した情報をもとにして、利用者がその人らしく暮らし続けられるよう、支援していかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査によって本人・家族から出来るだけ詳しく聞き、ケアプランに反映している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの日常生活を観察し、状況を分かりやすく記録している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>サービス担当社会を開き、入居者及び家族の意見を聞き入居者が安心して生活出来るよう、介護計画を立てている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、3ヶ月ごとに見直しておられる。ご家族の来訪はよくあり、ケアへの希望を聞くようにされているが、ご家族から希望は具体的にはあまり聞かれず、利用者ご本人からも希望はあまり出されない。来年1月には、市主催で「介護計画の作成」についての研修会が予定されている。研修には職員も参加して知識を深め、ご家族とのやり取りの窓口になって、家族からケアへの意向を聞き取るためにも、介護計画の作成を担当制にしたいと考えておられる。</p>	<p>今後、利用者一人ひとりについてアセスメントの充実に取り組み、介護計画につなげていかれて、利用者主体の介護計画の作成から、事業所のケアの質の向上を目指していかれてほしい。サービス担当者会議には、利用者やご家族等も参加できるよう取り組まれてはどうか。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個々の生活や健康面の状況を明確に記録し、その情報をミーティングで共有することによって、介護計画に活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人や家族のご要望があれば買い物やドライブへ行ったりしている。利用者のカットや毛染めもご本人と家族の希望に合わせて行っている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>併設のデイサービスにおいてボランティアの来所があれば参加している。小学校より学校行事の案内をいただいたり、地区の盆踊り等の案内をいただくので希望者は参加している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ご本人ご家族が希望される病院へは、ご家族が付き添われているが、難しい方はスタッフが付き添っている。ご家族が事業所に任せる場合は24時間体制で提携している協力病院を活用し2週間に1回往診に来られている。 (外部評価) 半数ほどの利用者は、協力医をかかりつけ医としており、2週間に一度往診に来てくれるようになっている。協力医は、夜間も連絡可能で、利用者に変化があるような場合には、電話で指示を仰いだり、様子を診に来てくださる。協力医以外で診てもらっている利用者は、受診時、ご家族が付き添われている。訪問歯科も利用できるが、以前からのかかりつけ医で診てもらう方もいる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 内科医が月2回往診に来られており、外科医、歯科医ともいつでも相談出来るよう協力している	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 医療機関と情報交換に努めており、早期に退院できるよう協力している。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の状態の変化時には家族に報告し、主治医の指示を受けながら行っている。 (外部評価) 看取り支援を行う場合は、事業所に「正看護師2名の配置が必要」との市からの指導があり、事業所では、入居時、ご本人ご家族に「事業所で終末期を過ごすことができない」ことを伝え、「緊急時は、救急車にて病院へ搬送する」ことをご家族に説明されている。利用者から「最期までホームで過ごしたい」と希望があったが、主治医から「ご本人がしんどいのではないか」という意見もあり、入院となった事例もある。管理者は、今後も、看取り支援を行う条件を整えることに難しさを感じておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に訓練は行っていない。主治医・看護師の指示を受けながら実践力を身に付けている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、定期的に避難訓練を行っている。	
			(外部評価) 今年度、スプリンクラーを設置された。4月の避難訓練時には、消防署の協力も得て、夜間を想定し、毛布を使って階段から避難させる訓練を実際に行ってみられた。地域の方も2名参加していただき、消火器の使い方等を一緒に体験された。参加していただいた地域の方達が、いざという時に駆け付けてくれることになった。管理者は、これまで職員が救命救急法を学ぶ機会がなかったことから、次回1月の避難訓練時には、消防署の方が救命救急法を指導して下さる予定になっている。又、事業所の裏には山があることから、土砂災害や、台風時の水害等についても避難方法を確立したいと考えておられた。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その場、その場の状況に応じた言葉かけや対応が出来る様に努力している。	
			(外部評価) 事業所では、「利用者への言葉のかけ方や言葉遣いが馴れ合いになっていたり、気がつかない間に言葉の拘束を行っているのではないか」ということに気付かれ、現在、改善に取り組んでおられる。まず、職員全員にアンケートを取って「言ってはいけない言葉」を書き出してもらった。「どこ行くの。座ってって」「ちょっと待って」等、職員から出された例に沿って、「どうしてそのような言葉が出てしまうのか」「どうすればいいのか」ということを、利用者の目線に立って考えたり話し合われた。又、「利用者一人ひとりを尊重した声かけができていないか」ということを、一週間ごとに、職員間で振り返り確認し合うよう仕組みを作られた。管理者は、利用者への言葉かけや対応については、さらなるケアの質向上に向けて、課題として挙げておられ、今後も継続的に取り組んでいきたいと考えておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ゆっくり話を聞き、言葉を引き出したり、話の先取りをしないようにしながら自己決定できるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事や入浴に関しても一人ひとりの希望を優先し、無理強いすることのないように心がけ、穏やかに過ごせるよう支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 上衣、ズボンの組み合わせに配慮したり、髪をカットして清潔に保ち、おしゃれが出来るように支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と利用者が会話を楽しみながら、一緒に食事をとっている。準備や片付けの出来る利用者には職員と一緒にいる。 (外部評価) 献立は、一週間分ずつ職員が交代で作成され、旬の食材を多く採り入れたメニューになるよう工夫されている。職員は、利用者に食べたいものをお聞きするが「何でもいい」とのお返事が多いようだ。利用者の誕生日には、お寿司か赤飯を選んでもらい、お祝いされている。肉が嫌いな方には魚、トマトやきゅうりが苦手な方には、漬物等で代替されている。利用者は、野菜の皮むき等を行ったり、食後は、下膳や食器洗い等をされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量もチェックをしている。水分摂取量についても記録を残しながらチェックしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後心がけているが、夕食後の口腔ケアは行っている。出来ない時もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けた排泄支援を行っている。 (外部評価) できるだけトイレで排泄できるような支援に取り組まれている。利用当初、紙おむつを使用し、尿意や便意の訴えがなかった方も、トイレに座る機会を作り、次第にトイレでの排尿がみられるようになり、排便もトイレで可能になった事例がある。朝食やおやつには、牛乳や乳製品を採り入れ、食後のデザートにバナナやりんご等の果物を付ける等、便秘対策も工夫されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物の工夫と個々にあった運動を行い、便秘の予防に努めている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に応じてゆっくりと入浴ができるように配慮している。 (外部評価) 基本的な入浴時間は決めておらず、その日のスケジュールや利用者の希望をお聞きしながら支援されている。冬場、脱衣場はファンヒーターで温め、浴室はシャワーで温かい湯をしばらく出すことで、湯気が立ち寒くないように工夫されている。職員の介助で浴槽に入ることが難しいような利用者は、足浴用のバケツで足を温めながら、シャワー浴を支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜眠れない利用者に対しては散歩など日中の活動量を増やしたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を確認し、薬の目的を理解するように努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 子供の頃の昔の遊びを思い出し、楽しんでいただく(花札等)洗濯を干したり、洗い物をしていただく。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 暖かい日は日光浴をしていただく。足湯、花見、ドライブ等出掛け楽しんでいただいている。顔がイキイキされる。	
			(外部評価) 天気の良い日は、事業所周辺を散歩したり、玄関先で日向ぼっこされている。月に一度は、遠くまでドライブ等されており、11月は、紅葉狩りに出かけられた。年に一度は、外食したり、お弁当を持ってお花見する機会を作っておられる。併設のデイサービスでボランティアの訪問がある時は見に行かれたり、交流のある他グループホームから毎年、芋ほりに誘っていただいております。今年も3名ほどの利用者が出かけられた。利用者の中には「足が悪いので迷惑をかけたくない」「車酔いをする」等の理由から、外出行事に参加されない方もおられ、散歩や日向ぼっこをして外に出る機会を作っておられる。事業所では、今後、買い物に出かけたり、外出の機会が少ない利用者の外出について、支援方法を検討したいと考えておられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) スーパーへ行き、好みのお菓子等買って楽しんでもらう。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族に電話して話していただく。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用空間には季節感を取り入れた壁飾りや写真、テレビがあり楽しく過ごせるよう工夫されている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所の玄関先は日当たりがよく、いつでも座って日向ぼっこができるように椅子を並べておられる。下駄箱の上には、シクラメンの鉢植えを飾っておられた。廊下の壁には、四季折々の花の折り紙細工や行事の写真等を飾っておられた。居間のテレビは、日中ほとんどついていて、午後からは、テレビをみている利用者や、職員と一緒に折り紙細工を行っている利用者の様子がみられた。車椅子を自走したり、シルバーカーを使ってご自分で共用空間を移動する利用者の様子も見られた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ホールには畳の居間や、ソファが置いてあり、個々の好きな場所で過ごしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>今までに使い慣れた家具等を居室に配置し、居心地よく過ごしていただいている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室は、どの部屋も日当たりがよく、冬は暖かい。日差しはカーテン等で調節されている。各居室に洗面台が設置されており、利用者が個々に洗面や歯磨きを行っておられる。化粧品を置いて使っている方もいる。テレビや冷蔵庫を持ち込んでおられる方や、たんすの上にご家族と一緒に撮った写真を飾っている方もあった。観葉植物等の鉢植えを置き、毎日水やり等の世話をされる方がおられる。読書の好きな方は居室で本を読まれる。電気カミソリや爪切りを置いて、ご自分が使用する方もいる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりの出来る事をして頂き、できない所だけ援助している。</p>	